


恩加島事業センター

1. 事業概要

住所	〒551-0021 大阪市大正区南恩加島7-1-22	
従業員数	323名 (H29.4.1現在)	
敷地面積	78,592㎡	
事業内容	恩加島事業センターは大正6年に設立以来、クボタ祖業の鋳物製品の製造に携わってきました。当事業センターでは環境と人との調和を目指し、鋳造業界としては早期に「環境優良工場賞」を受賞し、環境マネジメントプログラムの国際規格である「ISO14001」を認証取得しています。さらに、品質面においては、品質マネジメントシステムの国際規格である「ISO9001」を各事業部門において認証取得しています。	

主要製品



エンジン鋳物



ポンプ鋳物

工場変遷(沿革)

(設立年月日)

大正6年(1917)	大阪市浪速区より鋳物工場を移転
大正11年(1922)	内燃機鋳物、一般鋳物、合金鋳物の製造を開始
昭和8年(1933)	鋳型鋳物の製造を開始
昭和14年(1939)	トンネル用鋳鉄セグメントの製造開始
昭和39年(1964)	ダクタイルセグメントの製造開始
昭和49年(1974)	量産型遠心力鋳造による排水直管の量産開始
昭和51年(1976)	高圧高速造型鋳造によるエンジン鋳物の量産開始
昭和61年(1986)	減圧造型鋳造によるダクタイルセグメントの量産開始
昭和63年(1988)	中圧高速ライン(FLライン)稼働
平成3年(1991)	消失模型鋳造による排水集合管の量産開始
平成5年(1993)	日本工業規格(JIS)表示認可
平成9年(1997)	ESライン(流気加圧式造形ライン)稼働
平成10年(1998)	ISO9001 認証取得
平成11年(1999)	ISO14001 認証取得
平成13年(2001)	ダクタイルフレーム開発
平成18年(2006)	新キュボラ稼働
平成23年(2011)	SKMT(タイ)操業開始
平成25年(2013)	クボタ恩加島鋳物ミュージアム開設

恩加島事業センター

2.環境方針

ISO環境方針

恩加島事業センター 環境方針

クボタグループ環境宣言

- ・クボタグループは、地球規模で持続的な発展が可能な社会の実現をめざします。
- ・クボタグループは、環境に配慮した企業活動・製品・技術を通じて、地球環境・地域環境の保全に貢献します。

環境方針

恩加島事業センターでは、クボタグループ環境宣言を実現するために、環境基本行動指針に従い行動し、地球環境の保全が人類共通の重要課題であることを認識し、事業活動のあらゆる面で地球環境の継続的な改善及び汚染の予防に配慮して行動します。

- 1) 環境マネジメントシステムを確立・維持し、商品の生産において、地球環境・地域環境の保全に配慮した企業活動を行い、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
- 2) 関連する環境法規制及び受入れを決めた協定を順守します。
- 3) 環境関連の法規制を遵守するとともに、可能な限り自主基準を設定し、一層の環境保全に取り組めます。
- 4) 本方針を実践するための具体的な目的、目標及び施策を策定し、その実施状況を定期的に評価し、見直しを行うことに努めます。
- 5) この方針を事業センターの組織で働く又は組織のために働く全ての人々に周知させると共に、環境保全に対する意識の向上に努めます。
- 6) 地域での環境保全活動への参画、支援に取り組み、地域との共生に努めます。
また、この方針は公開します。

2016年 7月 1日 恩加島事業センター所長 辻 聡

ISO認証取得状況

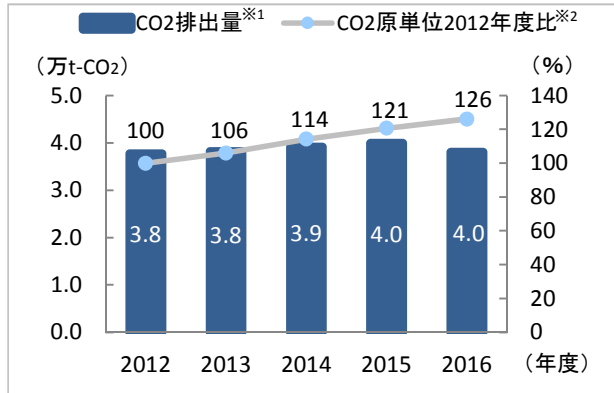
1999.12	ISO14001:1996	認証取得	JICQA	登録番号E105
2008.12	ISO14001:2004	更新		
2016.12	ISO14001:2015	更新		

恩加島事業センター

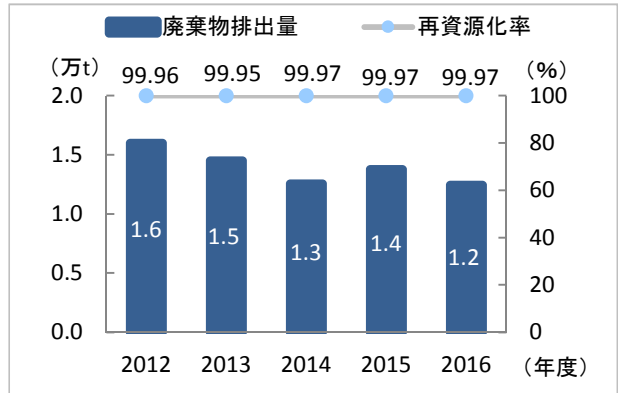
3.環境パフォーマンス

(1) 主要な環境指標の推移

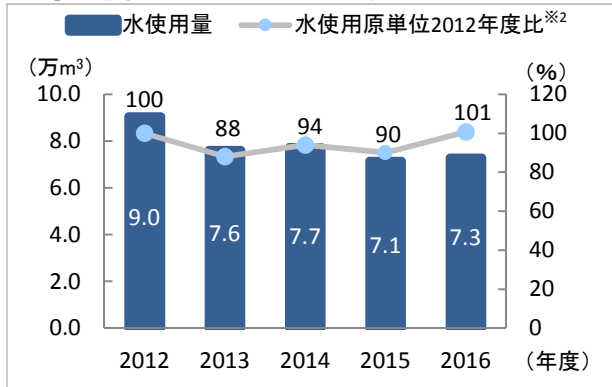
① CO₂排出量と原単位の推移



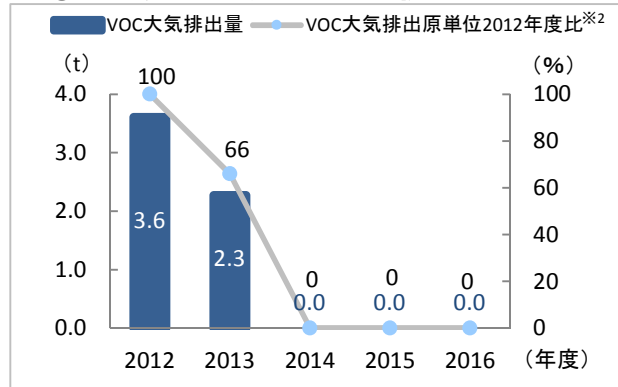
② 廃棄物排出量と再資源化率の推移



③ 水使用量と原単位の推移



④ VOC排出量と原単位の推移



※1 CO₂排出量はエネルギー起源のCO₂排出量です。エネルギー起源CO₂の算定において、電気の排出係数は各年度の値を使用します。

※2 2012年度における生産トン数あたりの排出量(または使用量)を100とした場合の指数

※3 報告対象期間:2012-2015年度は4月1日から翌年3月31日の集計、2016年度は1月1日から12月31日の集計

(2) PRTR法対象物質集計結果(2016年1月~12月)

単位: kg/年

政令 No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
87	クロム及び3価クロム化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	882
185	ジクロロペンタフルオロプロパン	1,181	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
277	トリエチルアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
302	ナフタレン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
308	ニッケル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
349	フェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
412	マンガン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	757
448	メチレンビス(4, 1-フェニレン) = ジイソシアネート	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※ 拠点ごとの年間取扱量が1t(特定第1種は0.5t)以上の物質について集計

恩加島事業センター

4. サイトデータ(2016年1月～12月の実績)

INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	14,325
水使用量	万m ³	7.3

OUTPUT

エネルギー起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	38,078
----------------------------	-------------------	--------

排出ガス	主要ばい煙発生施設		溶解炉(8号キュボラ)		
	項目	単位	規制内容	規制値	測定値
SO _x	m ³ N/h		総量規制	2.859	0.510
NO _x	m ³ N/h		総量規制	2.4	0.2
ばいじん	g/m ³ N		濃度規制	0.05	0.01

排水量	公共用水域	万m ³	—
	下水道	万m ³	4.2
汚濁負荷量	COD	kg/年	—
	窒素	kg/年	—
	りん	kg/年	—

排水	放流先	項目	単位	末端排水口	
				規制値	測定値
公共用水域		pH	最小値, 最大値		
		BOD	mg/l		
		COD	mg/l		
		窒素	mg/l		
		りん	mg/l		
		六価クロム	mg/l		
		鉛	mg/l		
		COD総量規制値	kg/日		
		窒素総量規制値	kg/日		
		りん総量規制値	kg/日		
下水道		pH	最小値, 最大値	5.0～9.0	6.9, 7.8
		BOD	mg/l	600	3
		COD	mg/l	—	—
		SS	mg/l	600	10

廃棄物排出量	t	12,455
再資源化率	%	99.97

VOC排出量	t	—
--------	---	---

恩加島事業センター

5.環境トピックス

環境省主催 「ライトダウンキャンペーン」への参加

実施情報
ライトダウンを実施(6/1~9/30) ※「夜間のみ点灯」を消灯
削減量
1220kWh
実施項目
屋外照明(広告灯)



6.環境コミュニケーション



清掃ボランティア活動

撮影実施日：2017年 7月 10日(毎月実施)
参加者：10名程度

毎月1回恩加島事業センター周辺の歩道を清掃しています。



クボタ e-day

実施日：2017年 4月 13,20日
参加者：185名(2日間延べ人数)

オールクボタの行事の一環として、工場周辺の清掃活動を行なっています。